

## 第10回 脳卒中カフェを開催しました

—失ったものを数えるのをやめ、残されたものを最大限に生かそう—

「パラリンピックの父」、「障害者スポーツの父」とされるリハビリの世界では有名なイギリスの神経学者、ルートヴィヒ・グットマンの言葉です。

脳卒中は命を落とす方は減りましたが、後遺症に苦しむ方は少なくありません。今まで当たり前であった機能が突然失われたり落ちたりして、出かけるのがおっくうになったり、ふさぎ込みがちになったりする方もいらっしゃいます。当院では、悩みを抱える方やご家族が気軽に集まることができ、孤立しないように支援するため「脳卒中カフェ」を開催しています。

9月28日に「第10回 脳卒中カフェ」を開催し、11名の方に参加していただきました。

当日のプログラムは、ミニ講座「福祉用具について」、健康体操では中国出身のリハ医、理学療法士による「座ってできる太極拳」、参加者とスタッフが全員参加した「プラバンキーホルダー作り」の3本でした。今回も国際医療福祉大学成田キャンパスから、理学療法学科、作業療法学科の学生5名が駆けつけてくれました。

ミニ講座では、転倒防止に適した福祉用具の紹介、当院の退院前訪問指導での福祉用具の導入、住宅改修の現状や効果についてわかりやすくお伝えしました。健康体操では太極拳の複雑で柔軟な動きに戸惑いながらも皆さん必死に体を動かしていました。メインイベントであるキーホルダー作りでは、プラバンという薄いプラスチックの板に個性溢れる下絵を描いた後、だまかに形を切り取り、その後オーブンで熱して完成です。皆さん黙々と集中しながらも、会話を交えながら和やかな時間を過ごせました。完成したオリジナルのキーホルダーを前にして皆さん笑顔で喜ばれていました。



手が反対かな？ 皆さん真剣です



どの絵を写そうかな？



次回は **12月21(土) 15時30分から**  
当院、回復期リハビリテーション病棟訓練室で開催します。

(詳細はホームページをご確認ください)

脳卒中や脳梗塞になった方とそのご家族が対象です。

ご家族だけの参加も歓迎いたします。ご興味のある方はぜひ、ご参加ください。